

企業誘致の補助金を「縮小」でも乱発 9億円支給して西口から東口への引越しでも乱発!

吉田一郎 マレリが本社を移転するが、補助金の返還を求める規定はあるのか。

補助2年後に撤退市は返還を求めず
さいたま市は「企業誘致のため」と称して、市内に本社や研究所を移した企業に、「産業立地促進補助金」を交付しています。

これまで28社に総額36億4,025万7,000円を交付しましたが、補助金をもらって数年後に、移転してしまう企業もあります。

例え七里に本社があつた八木アンテナに、市は08年から11年に計5,840万円の補助を出しましたが、同社は13年に撤退。

私は17年10月の決算審査で補助金の返還を求めるよう促しましたが、市は「経渙振興の寄与が認められた」と放置しました。

昨年は宮原駅西口に本社を置く自動車部品メーカーのマレリ（旧カルソニックカンセイ）が、テレワーカー普及による本社の縮小と移転を発表しました。さいたま市は08年から14年まで9億2,738万3,000円もの補助金を出していましたが、私は11月30日の一般質問で返還について追及しました。

ハ木アンテナ
八木アンテナ
カルソニックカンセイの前身で

ある関東精器は、60年から現在の場所に本社と工場を置いています。

千枝経済局長 事業継続義務期間の10年を経過しているので、返還に値しない。

吉田一郎 マレリは23年8月に、宮原駅東口の旧しまむら本社に移転すると報道されています。宮原の西口から東口に本社を移しただけで市の税収が増えるわけでもないのに、また補助金を申請してしまうのか。

千枝経済局長 企業の市外流出防止の観点から、市内移転でも補助の対象になる。吉田一郎 マレリの跡地にシンガポールのデータセンターやデータセンターが来ると報道されているが、これもIT産業の研究施設だと補助の対象か。

私は17年10月の決算審査で補助金の返還を求めるよう促しましたが、市は「経渙振興の寄与が認められた」と放置しました。

千枝経済局長 企業が転入したばかり。しかし数十年も前から市内にある企業にまで「よそに移転しないでくれ」と補助金を出し、撤退されても

戦時中からある植竹の富士フィルム（旧富士写真光機）の工場は、事務棟を建替えて工場を縮小し、3分の1をマンションにしようとしていますが、市は2億円の補助金を出しています。市外から企業を誘致すれば、法人市民税や事業所税固定資産税などの税収が増えます。

吉田一郎 企業が転入したばかり。しかし数十年も前から市内での引越しがあります。住民の転入や市内での引越しがあります。そこで提案してみました。

千枝経済局長 それによれば、飯能市が最高1,000万円の補助金を支給しています。それに比べてさいたま市はまったく企業優先です。

企業移転の補助金を住民の転入にも補助したらだが、本市の財政基盤の強化、地域経済の活性化、雇用機会の創出に向けての補助金なので、趣旨に合わない。

と根回しを始めました。

帆足議員は大宮派に転じたとはいえ、浦和の市役所の目の前に住み、前回の市議選では「さいたま市役所は動かしません！」を公約に掲げていた人です。

市役所移転には議長も含めて60人の議員のうち出席者の3分の2以上の賛成が必要です。民主改革十自民大宮派+公明十私で45人ですが、浦和の議員数人が反対や退席する可能性もあります。また2月議会ではコロナ感染や濃厚接触者になった議員が続出し、2日は5人が欠席しました。市役所移転の採決の日に賛成するはずだった議員が欠席して計算が狂う恐れもあります。

そこで自民大宮派は帆足議員を議長に就けて、「議長は自分の選挙区だけでなく、大局的な視点で判断すべきだ」と移転に賛成させる腹積もりだったようです。帆足議員も「議長になったので、大宮や与野、岩槻のこととも考えなければならなかった」と地元に言い訳ができます。

しかし突然の動きに公明が「帆足議員は議長にふさわしくない」と難色を示しました。帆足議員は03年の初当選時に公選法違反（買収）で逮捕され議員を辞職。11年の再選後は政務活動費の不正使用（切手代）で警察に告発されたり、女性問題で週刊誌ネタになったりもしたのです。

こうして帆足議員は議長選の出馬を断念し、阪本議員が棚ボタで「口約束」より4か月早く議長に就任。来たるべき市役所移転の採決に念には念を入れようとした自民大宮派の思惑で、帆足議員が恥をかかれた格好でした。

自民以外から初の議長 突然交代の舞台裏 市役所移転に盤石を期すため!?

さいたま市議会ではたいてい5~6月に議長が交代しますが、2月2日に島崎豊議長（さいたま自民・桜区）が「都合により」辞職願を提出し、深夜までかかって議長選挙が行われ、阪本克己議員（民主改革・桜区）が合併以来初めて自民党以外から議長に選出されました。

突然の議長交代の背景は、新都心への市役所移転を確実に進めたい自民大宮派の勇み足が滑ったようです。

「議長になりたい」浦和の議員が続々大宮派へ

さいたま市議会では、これまで17人の議長はすべて自民党でした。自民党の議員にとっては年功序列で議長になり、園遊会に招かれて天皇陛下とお会いすることが「花道」のようです。

09年に自民党県議だった清水勇人氏が民主党の支援で市長になると、反発した自民党は共産党や私とともに野党になりましたが、17年3月に大宮派（自民真政）が「新都心への市役所移転」を掲げて分裂。浦和派14人に対して大宮派は9人でしたが、民主・公明の「清水与党」と手を組み、議長はその後ずっと

と大宮派から選出されました。

20年には「野党のままで議長になれない」と自民浦和派の中堅・若手たちが雪崩を打って大宮派に合流。大宮派（さいたま自民に改称）は16人に膨張し、大宮派に移った島崎議長が21年6月に選出されました。

この時、それまでは副議長しか出さなかった民主改革（17人）が「議長は第一会派から選出すべき」と阪本克己議員を擁立しようとしました。桜区は次回の市議選で定数が5→4に減ることが確定（かわりに緑区を5→6に増員）と言われており、再選が危ぶまれる桜区の議員同士の対決かと言われました。

阪本議員は国会では「野党共闘」の共産と、「大宮派に寝返った島崎憎し」の自民浦和派からの得票を期待しましたが、共産は「清水与党の民主」に投票するわけにはいかず出馬を断念。島崎議長との間で「1年後に議長を譲る」という口約束があった…と言われています。

自民大宮派の策動に
公明が「ついてけんわ」

島崎議長が辞職願を出した後、自民大宮派は帆足和之議員（浦和区）を議長にしよう



阪本議長（左）と帆足議員（右）

